



博士課程教育リーディングプログラム
免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム

NEWS LETTER



number
2017 spring

7



LGS
LEADING GRADUATE SCHOOL
AT CHIBA UNIVERSITY

3rd LGS Winter Camp

LGS3期生 中川 拓也

2017年2月4、5日に「3rd LGS Winter Camp」をリソル生命の森リゾートで開催致しました。Winter Campは医療に関係したテーマを設定し、そのテーマに対して学生が新規ビジネスモデルを考案、発表を行うイベントで、今回が3回目の開催となりました。また、今回は実際に医療分野のベンチャー企業で活躍されている株式会社モドレー代表取締役で医師の豊田剛一郎先生にお越しいただき、ビジネスモデル・医療の問題点などについて貴重な御講演をいただくことが出来ました。

ビジネステーマは第一回が「2050年の感染症対策」、第二回が「2020年の健康管理ビジネス」でした。今回は「近未来を見据えた実現可能なメディカルビジネス」という実現可能なテーマに絞ったものになりました。このテーマに沿って、学生らは多くの議論を研究・日々の業務などと両立して行ってきました。

初日はポスター・実演ブースでビジネスプランの概要を発表し、学生、指導教員、招聘講師の方々とディスカッションを行いました。いずれの班の発表でも活発な意見交換が行われました。その後、各班はそこで得られた課題・問題点に対しグループディスカッションを行い、より良いプランとなるよう議論を重ねました。

2日目はその改善されたプランをもとにパワーポイントで再度発表しました。いずれの班も独創性に優れ革新的なプランを提示しましたが、今回は内視鏡を併用することで侵襲を減らす胃吻合機を考案した“傘日天公司（KASA Nichiten Koushi）”が優勝しました。今後は、これらのビジネスプランを実際の医療へ応用するための具体的なプランが出てくることを期待したいと思います。

今回のWinter Campでは、昨年に引き続いて医学薬学領域・将来の夢・リーダー像を語り合うことで、LGS学生はお互いに磨き合うことが出来ました。独創的なアイデアを考案するだけでなく、班員で議論を重ねて良いものを作り出すチームワークの大切さを学びました。これらの交流はLGSの更なる飛躍と発展に結びつくものであり、今後もこの活動を続けていきたいと考えています。



お問い合わせ先



千葉大学医学部リーディング大学院事務室 TEL.043-226-2817
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻 1-8-1 lgs-jimu@chiba-u.jp

News Letter
number 7

■発行日／2017年3月

The Third Summer School at Charité University Medicine, Berlin

LGS4期生 馬 敏

It was a very good opportunity for me to participate in the 3rd summer school co-held by Charité University Medicine, Berlin and Chiba University. The lectures were held for four days from September 19, 2016. The theme of the summer school was "Global health and local knowledge."

Seasoned professional experts in their fields gave us notable lectures. In the lecture by Professor Stuart Blume from University of Amsterdam, "Local and other Knowledge," we discussed the following topics: 1) whether local experience-based knowledge is equal to evidence-based science; 2) whether local knowledge is under control; and 3) what makes us understand the role of cultural knowledge in global health? Dr. Gamhewage, who leads the WHO emergency programme, talked about "New social media and global health." Her presentation impressed all participants, and her passion for medical research strongly made me feel the meaningfulness of science. During the working session, we were divided into eight groups to do cooperative work, and gave presentations on a risk assessment from different perspectives. I was stimulated by other participants' sincere attitude towards science and keenly felt a responsibility as a researcher. The lectures at Charité University broadened my views on science.



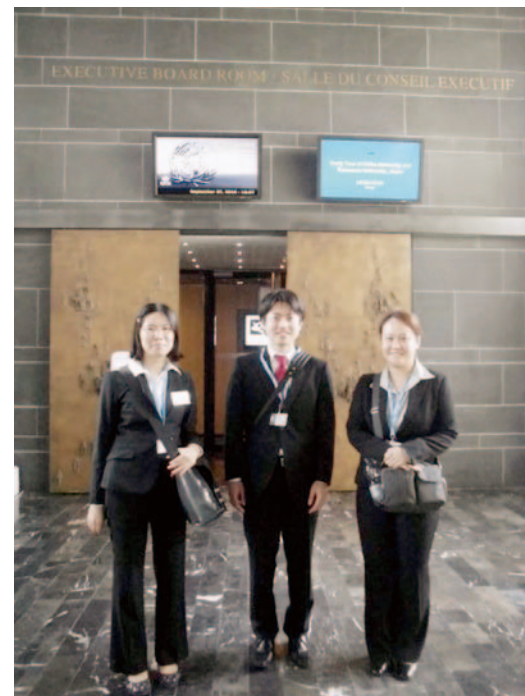
海外研修（ジュネーブ、国際機関）

LGS4期生 栗林 和華子

2016年9月27日から29日までの3日間、WHOなどの国際機関研修に参加した。研修場所はスイスの都市ジュネーブである。

本研修を通して、世界保健機構（WHO）や世界移住機関（IOM）、ジュネーブ国際機関日本政府代表部、国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）、を見学し講義を受けた。また、WHOの会議場の一室を借りて、WHOや国際労働機関（ILO）、国連環境計画（UNEP）、国際電気通信連合（ITU）の職員、JPO制度を利用してWHO正規勤務を目指している方々の話を伺い、質疑応答を行った。さらに、国際連合ジュネーブ事務局（UNOG）を訪問し、実際に国際会議を行っている会議場をガラス越しではあるが間近に見学することができた。

私は国際的に研究活動を行いたいと考えている。その上で、国際機関で働く先生方の話を聞き、養っていくべき能力を二つ学んだ。一つ目は、他の分野で活躍するエキスパートたちと情報共有できるレベルの専門的知識を高めることである。そして二つ目は、グローバルな視点で社会のニーズを捉え続けるために、幅広い分野を学び、エキスパートたちとの交流を絶やさないことだ。当たり前のことだが、一国では成し遂げられないことを成すために国際機関は存在している。つまり、私が自分の研究活動を大きく展開していくためには、自己向上のみならず、他者の助けを借りることが不可欠だ。私の研究で他のエキスパートたちと高め合えるような研究活動を心がけたい。





リーディングプログラムを 修了するにあたって



岩花 東吾

LGS 1st Year Member

このリーディングプログラムにおいて、自分とは異なる分野・環境の研究者たちと多くの時間を共にし、議論をすることができました。また、海外研修を通して視野が広がったと思います。修了後は、重症心不全治療の研究に従事するとともに、診療においてもリーダーシップを発揮できるよう努力します。



北本 匠

LGS 1st Year Member

私は、必修科目以外のリーディングプログラムへの参加はほとんど出来ておりませんでした。それでもここで出会えた仲間には心より感謝しております。今後も一流の医学研究者となれるように精進したいと存じます。



Md Murshed Hasan SARKAR

LGS 1st Year Member

I feel proud to be a part of the Chiba University Leading Graduate School Program. In this program, I learned lots of lessons from different branches of sciences. I also had good experience in the lectures of Advanced General Education by a number of leaders from several distinct fields. I had participated overseas training in some world well-known institutes like National Institute of Health (NIH) and World Health Organization (WHO). Combining all the experiences I got in this program, I feel the Chiba University Leading Graduate School Program is a very rewarding program. I believe it broadens my outlook about my future and it will guide me to become a successful leader in future.



坂本 健一

LGS 1st Year Member

このプログラムに参加する事で、多くの出会いと刺激をいただいた。特に研究リーダーとして世界で活躍する先生方から、多岐にわたるアドバイスを直接いただいたことが、自分の研究のブレイクスルーにつながったと思う。今後もプログラムを通じて得た経験を大きく発展させていけるよう努力していきます。



影山 貴弘

LGS 1st Year Member

リーディングプログラムを通じて、多様な分野に触れる機会を得ることが出来ました。国内のみならず、サンディエゴ、ベルリンなど海外での研修は、自分の視野を広げる重要な経験となりました。また、このプログラムを介して知り合えた方々が貴重な財産となったと感じています。



蔵田 能裕

LGS 1st Year Member

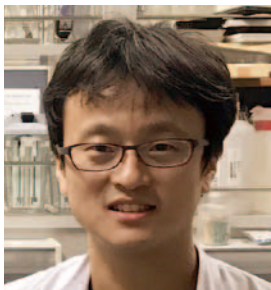
千葉大学のリーディング大学院に4年間所属し、今回修了を迎えることになりました。1年間は外病院での勤務でしたが、残りの3年間は他領域の同僚と過ごすことができました。日頃、外科医として働いていると知り合うことのできなかった人たちとの繋がりを、今後に活かしていきたいと思います。



佐藤 俊平

LGS 1st Year Member

本プログラムで培われた学生間の横の繋がりは、将来的に分野の垣根を超えたブレイクスルーをもたらすと思われます。その時まで、まずは自分自身が小児がん研究において一流として認められるよう精進して参ります。

**芳賀 祐規****LGS 1st Year Member**

リーディングプログラムでは、基礎的研究の下地となるセミナーや実習だけではなく、統計や臨床研究の実習まで、偏りが無い体系的な学習をすることができました。また、他の研究室をはじめとして広く他と関わる機会を得ることができました。中でも、同期のメンバーは刺激的で、これからも互いに切磋琢磨できる関係だと考えます。

**栞田 大生****LGS 1st Year Member**

英語を母国語とするネイティブスピーカーに1時間になんて英語による学位審査を行っていただき、無事に合格できたことは自分にとって貴重な経験になるとともに、自信につながりました。今後、リーディングプログラムを通じて得た知識を活かして医学の発展に寄与したいと考えています。

**森本 侑樹****LGS 1st Year Member**

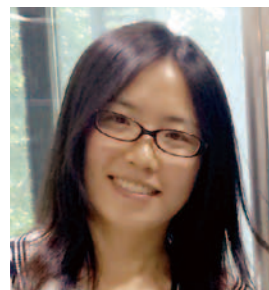
リーディングプログラムで3つの“F”を手に入れた。その3つとは、“Flexibility”、“Frontier Spirit”、“Feasibility”である。さらにもう一つ“F”を加えたい。それは“Friends”だ。この4つの“F”、特に最後の“F”を一生大切にしていきたいと思う。

**本田 拓也****LGS 1st Year Member**

このプログラムに参加したことで、自分の専門分野以外に対する興味を強く持つことが出来ました。違う専門分野の学生との交流や、『高い教養を涵養する特論』を始めとした授業・セミナーを聴講したことで、分野横断的な視点の重要性を実感し、意識して研究することが出来ると感じています。貴重な機会を与えていただきありがとうございました。

**森井 真理子****LGS 1st Year Member**

プログラムに参加したことで得られた濃密な時間は、間違いなく糧になったと思います。自分にとって難しいと感じることに挑戦することが楽しいと思うようになりました。修了後も、挑戦する気持ちを忘れずに、上へ上へを積み重ねていきたいと思っています。

**劉 楠****LGS 1st Year Member**

私は、このプログラムでの経験から、特定の専門分野に偏ることなく多方面に目を向け、幅広い知識を身につけることや外国語でのコミュニケーション能力が研究者として重要であると考えようになりました。今後も幅広い視点を持つことを意識してグローバルに活躍する研究者になることを目標とし研究に取り組んでいきたいと思っています。

**山本 健****LGS 2nd Year Member**

LGSプログラムに参加でき、免疫発生学に基礎研究を学ぶ機会を得られました。今後は、小児医療領域における研究医“Physician-Scientist”を目指し、患者さんに寄り添いつつ、新しい治療や予防法の開発に挑戦していく医師でありたいと思います。

**宇津 美秋****LGS 2nd Year Member**

今年度プログラムを修了するにあたり、英語での学位審査に臨みました。質疑応答もきちんと対応することができ、講義やインターンシップなど英語を使う機会に恵まれて英語力を伸ばせたと実感しました。今後は英語力を含め、プログラムで学んだことを生かしてグローバルリーダーとなれるようより一層精進したいと思います。

海外研修 (La Jolla, San Diego, USA)

LGS3期生 薄田 健史

本研修では、(1)田辺三菱製薬会社の連結子会社である「タナベ リサーチ ラボラトリーズ アメリカ社」、(2)協和発酵キリン株式会社の連結子会社である「Kyowa Kirin Pharmaceutical Research社」、(3)免疫学領域研究において世界的な非営利研究機関である「La Jollaアレルギー免疫研究所」、(4)最先端のバイオメディカル研究・免疫研究用試薬を開発・製造するベンチャー企業である「BioLegend社」、(5)独自に開発したモノクローナル抗体作製技術をベースに診断薬・医薬品に応用する事を目的として、2名の日本人がアメリカに起業した「Abwiz Bio社」、の各企業等について、3日間に亘って訪問しました。

各施設では、「抗体医薬」をキーワードに最新の医薬品開発や研究に関するレクチャーおよび研究設備の見学がそれぞれ実施されました。また、全体の研修を通じて、アメリカにおける研究スタイルや価値観について、日本との相違点を深く学びました。これまでアメリカにおける研究活動の素晴らしさについては情報源が伝聞のみであり、話だけではどこがどう素晴らしいのかイメージが湧かず、さほど興味を抱いていなかったのが現状でした。しかし、今回の研修でアメリカにおける研究環境を自分の目で実際に確認し現状を体感する機会を与えていただいたことで、日本の研究環境との比較ができ、ポストドクを日米どちらで行うべきか考えることのできるスタートラインに立てた気がします。

本研修は、自分の将来を見つめ直す上で大変有意義な研修となったと確信しています。



タナベ リサーチ ラボラトリーズにて

学位審査

LGS2期生 山本 健

博士課程4年の私は、日本人主査副査の先生3名、ならびに本学の探索的先端治療学教室のMark Bix先生を加えた計4名を審査員に迎え、学位審査を行いました。通常、本学の学位審査は日本語での公開審査です。しかし、リーディングプログラム所属学生は英語での発表に限定され、英語力が同時に評価対象となっています。

私は、今回の発表準備やその後のディスカッションを通じて自分自身の成長を実感しました。リーディングプログラムでは英語での医学講義や英語プレゼンテーションセミナーが必修科目となっていたため、それらを思い返しながら発表準備をすることで、自分自身が驚くほどスムーズにスライド及び読み原稿作成が進んだと感じています。さらに、LGSセミナーや理研サマープログラム、海外研修等へ参加することで、ディスカッションの場に自分の身を投じる経験が数多くでき、質疑応答も臆することなく行える気概を持つようになりました。

発表本番に向けた原稿の読み練習・暗記を行い、幾度となく予演を行うことで、本番でも大変自信を持ってプレゼンテーションを行えました。また、発表後に頂いた質問には、厳しいもの、明確な答えもないものもありましたが、拙い英語を駆使してではありましたが、自分の言葉で応えることができたと自負しています。振り返ると、これら準備から発表まで一連のプロセスを自分で計画し、意図的に進められたことが何よりの成長の証だと思います。

今回の学位審査を通し、自分の研究を伝えること、他者と議論することの楽しさを改めて感じました。この体験が今後の研究や臨床活動にプラスとなったと確信しています。

